

第十三週

この週では話が一つだけ配當されてゐる。一つでなければならぬといふわけでは無いが、十二月の聲を聞く世のあはたゞしさが、自ら幼稚園にも流れて来る。先生はいろいろ考へる。おもちや屋で賑やかに店を飾ろうか、それとも繭玉をつかつて年の市にした方がいゝか、そしてそれぞれの計畫のみに幼児も製作に忙しい。こゝでは誘導保育で街の景になつてゐるが、いづれにしてもする事が澤山ある。朝の挨拶がすむや、すぐ自ら進んで仕事にまゐりかゝる子もあらう、一度び庭に飛び出したら金輪際室にはいつて来ようこしない猛者連に仕事をさせようと思へば朝を選んでさせるこいふわけで、自ら談話の形式をこつた話は機會も少なくなる。

記載してはゐないが随時随所に行はれる話し合ひは却て多くなるわけで、紙箱の家なら、誰々は何々にする、年の市

なら何を作らうかといふ夫々の下相談だけでも話はいろいろに發展するであらう。

年少組であるから、従来の製作では殆んど設定された計畫のみに進行してゐるが、もうそろゝ誘導保育の相談相手に幼児を活躍させる時期であるから、幼児もいろいろ意見を述べるこゝによつて發言を促される機會が多いであらう。

鳥と獸の戦争

蝙蝠の習性がそうである爲に、みんな役をふりあてられてゐるが、つまりは狡猾な行爲をにくむのであるから吳々もその點を注意して話すこゝ。

第十五週

皇太子様の御事

御誕生の折、世を擧げて歡び祝つたその時の様子を話して聞かせるもよし、お寫眞と共に御近況なき新聞に出てゐる

るのを切り抜いておいて話しても可い。

新聞に、子供に聞かせていゝ話がよく載つてゐる。切抜

観 察

第十三週

暖房設備 年長組第十二週参照

第十四週

りんご

子どもにまつては果物ミ「リンゴ」はシノニムみたいなものである。果物の観察はむづかしいと言ふのは食べられる故である。がさうかと言つて繪にしてしまふと観察の本質性は少くとも半減されると思ふ。りんごならば、殊に魅力の強いりんごならば、果物店のりんごを作つたり、寫生したりした後、少しづつ子ども達とわけてもよいものであらう。さうすれば中迄観察させる事も出来る。

第十五週

暮の町

いて用意しておく事は保母としての不斷の心がけの一つであると思ふ。

誘導保育で紙箱の家が出来、それを並べて町が出来る。

ちやうど年の暮だ。その町をそのまゝ暮の装飾しても面白い。さうしない迄も暮の町はあはたゞしいが何がなし楽しいのを、銘々の通る、又は住む町を、みんな飾がしてあつたかみて來させて發表させるのも面白い事である。又幼稚園の近くの町を一しよにみに行つてもよい。

冬至

時間の経過に子ども達は割合に無關心である、さいふのは子ども達の生活が具體的である爲であらう。しかしこのごろは一年中で一番晝間が短くて夜が長い。即ち早く暗くなつて、朝明るくなるのがおそいさいふ事を話して冬至の意味を知らせる事はいゝと思ふ。これはさう観察させるかさいふより氣候とか天體とかは時間さかに關心を持たせる